



▲市長と教育委員会で構成される「古河市総合教育会議」。より充実した教育行政の推進をめざして、活発な意見が交わされます

黙ったまま座っている。下を向いて固まっている人も。まるで集団見合いのようだが、「見合い」ではない。長テーブルで四角く囲った三方の席には、PTA会長さんを中心とする保護者や先生方。向かいの席に私、副市長、教育長。そして教育関係の職員たち。しばし緊張。PTAと市三役との「教育懇談会」は初めてだから。

互いの紹介が終わり、学校や家庭が直面する課題や問題が出席者から提起されると、その一つひとつが真剣に論議され、やがて話し合いが佳境に入っていく。

「運道具や楽器が古い。足らない」「公民館の学習室が狭い」「大会出場の補助金を手厚く」「市バスの利用拡大

を」「おいしい給食を」などの要望ばかりではない。

「通学路の防犯カメラはどこに設置？」「先生不足の対策は？」「学力アップはどうしたら？」「小中連携や一貫校をどう進めるのか？」「古河塾をもっと充実させる考えは？」「高校生の学習支援は？」「予備校や民間塾との連携はどのように？」「タブレット教育の成果と目標は？」「低学年の英語教育はいつから？」等々、かなり突っ込んだ質問に、私ばかりでなく、

**教育懇談会**  
「出席してよかった。  
また参加します」

副市長や教育長も言葉を選びながらの答弁だ。

教育懇談会を企画したのは、昨年4月に地方教育行政法が改正されたからに他ならない。

子どもの「虐待」「いじめ」「自殺」など、暗いニュースが後を絶たない。今、新制度は、教育行政における責任の明確化や迅速な危機管理体制の構築等に加え、地域の民意を代表する首長との連携強化を必要としているのだ。すなわち、首長と教育委員会が教育

政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることを強く求めていることから、私はまず学校現場の「生の声」を聞くことが不可欠と考え、PTAとの話し合いを提案。実施のさなかにある。

中学校9校の教育懇談会が2月に終了し、5月から小学校23校で順次開催している。どの学校も開始前と終了後とで、保護者の表情がまるで違う。

「誘われたときは嫌でしたが、出席してよかった」「また参加します」「定期的に開催してください」と、励ましの声までいただける。

懇談会が終わっても、廊下や玄関口で立ち話が続くこともたびたび。保護者特に母親の教育にかける情熱は凄（すご）い。「切実な願いを、可能な限り教育行政に反映させねば」との思いにいつも駆（か）られてしまう。

教育懇談会で教えられることがたくさんある。これからもPTAとともに学校教育を真剣に考え、充実させたい。



古河市長  
菅谷 憲一郎